

福島県南会津町「南郷トマト」の働き方

トマト×スノーボード

南会津町でトマトを生産する若い農家は、スノーボードからトマト生産を始めた新規就農者が多く、今でも冬はスノーボードを楽しんでいます。

南郷トマトとは？

南郷トマト生産組合において厳しい選果を経て出荷されたトマト。
標高が高く昼夜の寒暖差が大きいため、糖度が高く、身が引き締まっている。
(2015年日本農業賞の大賞を受賞)

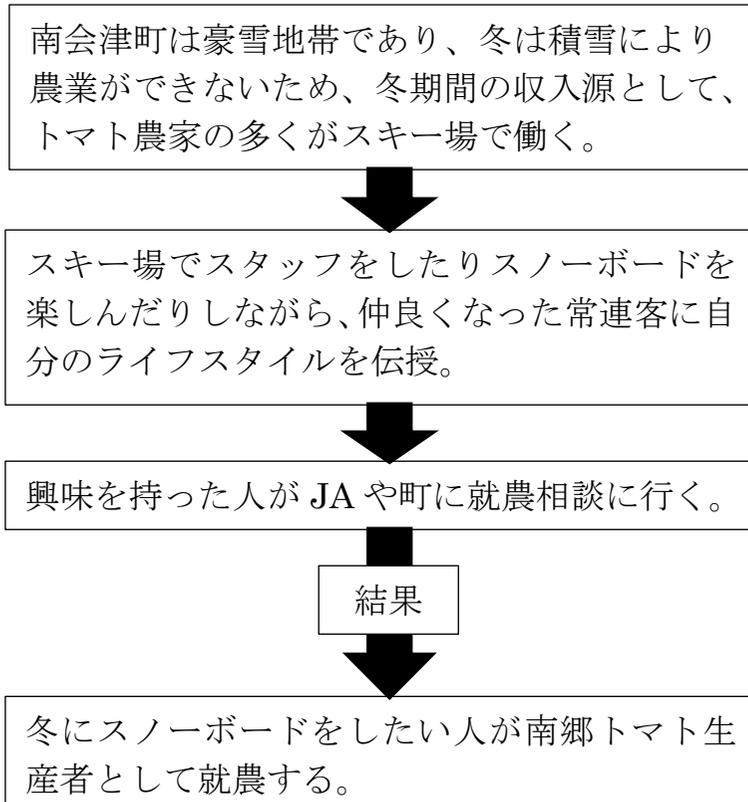
南会津町（南郷地域）

- ・福島県南西部にあり、森林が総面積の約92%を占める山間部に位置する。
- ・特別豪雪地帯に指定されており、冬季は2m近くの積雪がある。
- ・4か所のスキー場があり、特に南郷スキー場ではスノーボードが盛ん。
- ・南郷トマト生産でのIターン新規就農者はここ5年間で10世帯ほど。

南郷トマト生産組合

- ・昭和37年よりトマトの生産を開始し、現在121軒の農家が所属している。
- ・保有する南郷トマト選果場において南郷トマトを各地に出荷している。
- ・栽培者に指導を徹底することで高品質のトマト生産に力を入れている。
- ・若手農家が集まる「トマト研究部」を組織し、お互いのハウス設置や除雪など人手が必要な作業をフォローし合う。

◎就農に至る背景



○その他農家の南会津町の冬の過ごし方

- 町内：除雪作業、旅館のアルバイト
- 町外：工場等で出稼ぎ・実家に帰る・旅行。

◎トマト農家の生活

トマト生産者の年間スケジュールの例

4月	播種
5月	圃場の準備
6月	定植
7月	収穫開始
8月	
9月	農繁期
10月	
11月	収穫終了、後片付け
12月	旅行
1月	
2月	スキー場で働きながら、スノーボードを楽しむ。
3月	

- ・農繁期は休まず働き、農閑期は旅行やスノーボードをしながら過ごす。
- ・トマトは世話をすればするほど収量が上がり、所得が多くなる。冬の休暇を楽しむために農繁期は皆が一生懸命に働く。

◎取組内容

少子高齢化の進む南会津町においては貴重な若者を定着させるため、関係各所と連携して様々な支援を行う。

資金
<ul style="list-style-type: none"> ・国：農業次世代人材投資資金（研修・就農時の資金） ・県：元気な産地づくり整備事業（栽培設備の補助） ・町：新規就農者支援事業（研修・就農時の資金） 南会津町農業等振興事業補助金（機械・資材・苗の補助） 南会津町農林水産業振興基金（融資） ・JA：JA 会津よつば新規就農応援資金（融資）

技術
<ul style="list-style-type: none"> ・トマト生産組合：1～2年間の個別研修受入 ・県、トマト生産組合：栽培技術等の研修会の開催 ・県、JA、トマト生産組合：就農後の巡回指導

住居
<ul style="list-style-type: none"> ・トマト生産組合：研修受入農家による斡旋 ・町：新規就農者就農促進住宅 空き家バンク

◎課題

長年Iターンの就農者（スノーボーダー）を受け入れてきたが、課題も多い。

対応

① 離農者

就農後、突然いなくなってしまう。

2名以上での就農を義務付け、県・町・JA・生産組合の4者での面接も実施。

② 住居、圃場がない

Iターン者は住居・圃場のツテがない。

研修先農家による斡旋と町の住宅・空き家情報の整備。

③ スキー場の経営危機

人口減少などにより赤字となり、閉鎖が検討される。

指定管理者公募により民間参入による経営改善が図られた。

④ 選果場の老朽化

選果に時間がかかるため、農繁期は早朝から深夜まで作業が及ぶ。人手不足にもつながっている。

設備の修繕や更新などは大きな費用が掛かるため、国や県の補助事業がなければ改善は難しい。

◎ トマト農家の声

就農・営農に当たり、行政やJA、トマト生産組合の支援等についてトマト農家から出た意見。

○良かった点

- ・就農資金の補助が充実していて、自己資金が少なくても就農できる。
- ・研修先の親方が親身になってくれて、家や農地を紹介してくれた。
- ・補助金等は県や町、トマト生産組合から詳しい説明があつて、申請しやすかった。

○改善してほしい点

- ・研修、就農し始めたときから補助金が出るまで時間がかかり、トマトの収入も8月以降になるため、就農初期は生活が苦しい。
- ・農家でアルバイトしていたら旧青年就農給付金の対象にならなかった。
- ・除雪が大きな負担になるため、除雪機等の購入補助が欲しい。
- ・除雪機の他にも補助対象外になる機械設備が多い。

◎ 今後の取り組み

新たに農業を始める人、現在農業に取り組んでいる人がもっと頑張れる環境をつくる。

町

・住宅の整備

新規就農者就農促進住宅の増設、空き家情報の拡充を行い、移住・定着を推進する。

・冬の雇用確保

スキー場などの農閑期に働ける場を維持し、今の就農形態を維持する。

J A

・選果場の拡充

選果設備の新規導入により効率化、省力化を図る。

・各農家の所得向上

研修・指導の徹底により、所得の向上を目指す。